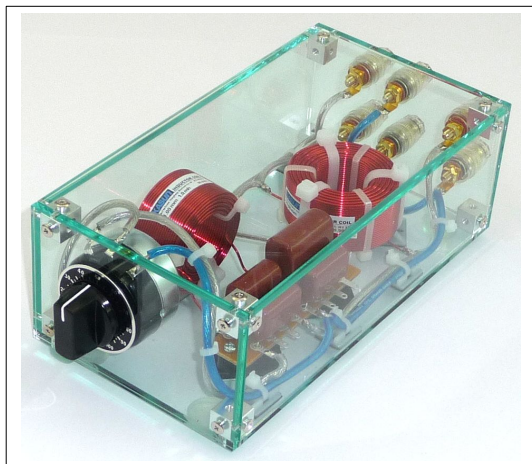


クロスオーバーネットワーク組立キット WP-CN1600

組立説明書 ver.02



■主な仕様

- ・クロスオーバー周波数 1.6kHz
- ・減衰特性 -12dB/oct
- ・外形寸法 幅 100mm 高さ 65mm 奥行 185mm (端子等の突起部は含まず)
- ・重量 840g

■必要な工具

- ・ハンダこて
- ・ニッパ
- ・ピンセット
- ・マイナスドライバー(歯幅3mm)
- ・ナットドライバー(M4用)
- ・プライヤー
- ・ハンダこて台
- ・ワイヤーストリッパー
- ・プラスドライバー(1番)(2番)

■お断り

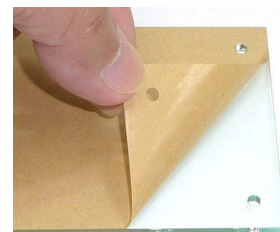
- ・本製品は組立キットです。作業中の安全確保のため説明書をよくお読みになり、正しい工具の使用・手順を守ってください。
- ・完成品でない製品の性格上、組み立て後にお客様が期待される性能・品質・安全運用等の保証はできません。完成後はお客様(組立作業)ご自身の責任のもとでご使用ください。
- ・本製品は機器への組込み他、工業製品としての使用を想定した設計は行っておりません。また本製品に起因する直接、間接の損害につきましての補償には応じられません。
- ・本製品の組立サポート(組立代行)は承っておりません。
- ・配線ミスによる故障、動作不良に関しては有償修理となります。電源を入れる前に配線間違いがないか入念にチェックしてください。
- ・各基板やパーツ類は個別販売しておりますのでお客様ご自身での交換修理も可能です。

販売元：共立電子産業株式会社 共立プロダクツ事業所

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋5-8-26
TEL 06-6644-4447 FAX 06-6644-4448

●組み立てをします

①アクリル板6枚すべての「保護紙」をはがします



ピンセットもしくは爪先ではがします
「ぬるま湯」に漬けておくとはがしやすくなります

②「フロントパネル」にパーツを取り付けます

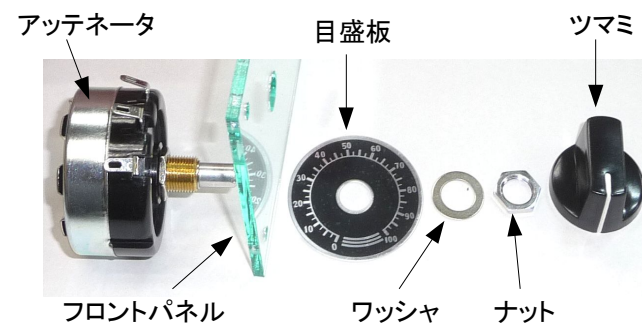


②-1「アッテネータ」の端子を約45°に曲げておきます(3カ所)
(ハンダ付け作業をしやすくするためです)



②-2「目盛板」の保護シールをはがします

②-3「アッテネータ」を取り付けます



アッテネータ

目盛板

ツマミ



プライヤーもしくはボックスレンチでナットを回して固定します



②-4「ツマミ」を取り付けます
マイナスドライバーを使用します

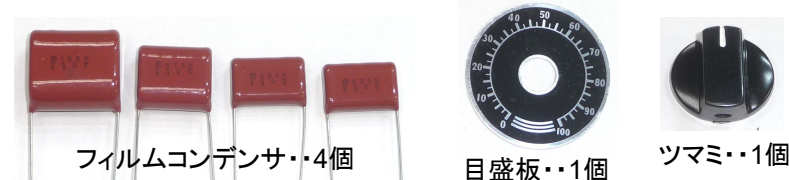
●梱包されているパーツの確認をします



コイル(大)・・・1個

コイル(小)・・・1個

アッテネータ・・・1個



フィルムコンデンサ・・・4個

目盛板・・・1個

ツマミ・・・1個



ラグ板・・・1個

スピーカーターミナル
(赤)・・・3個
(黒)・・・3個

配線材
・・・1.5m



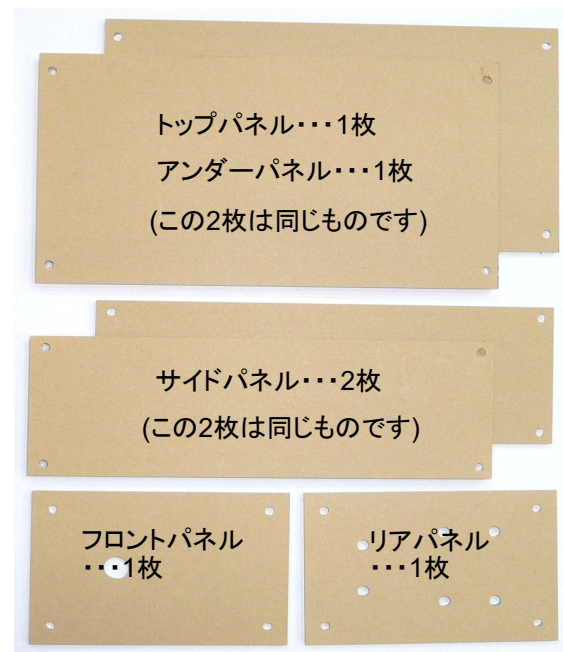
バンドベース(大)・・・4個

バンドベース(小)・・・6個

結束バンド(小)・・・10本

ベテット・・・2個

結束バンド(大)・・・4本



トップパネル・・・1枚
アンダーパネル・・・1枚
(この2枚は同じものです)

サイドパネル・・・2枚
(この2枚は同じものです)

フロントパネル
・・・1枚

リアパネル
・・・1枚

アクリル板(6枚)

アクリルケース
組立用ネジ



サイコロスペーサ・・・8個



超低頭ネジ M3×6・・・24個

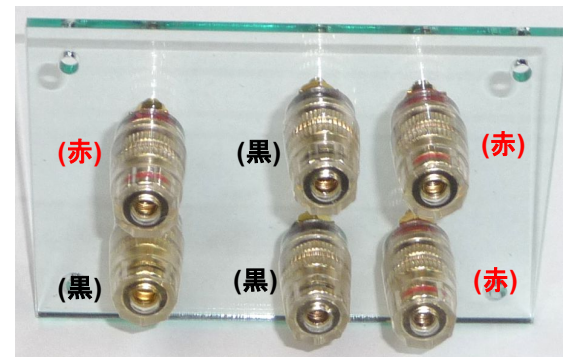
ラグ板
取付用ネジ



ナベネジ M3×6・・・2個

③「リアパネル」に「スピーカーターミナル」を取り付けます

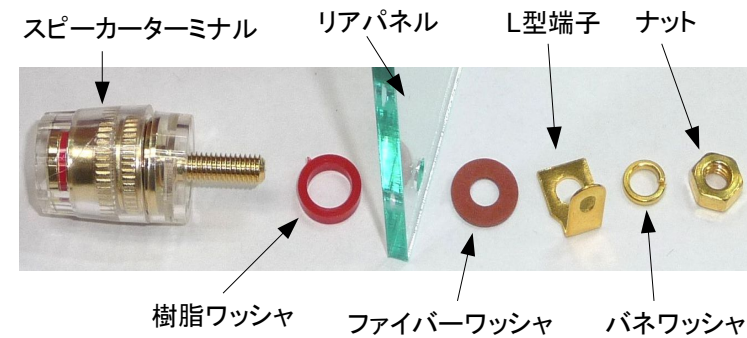
ケースの外側から見たところ



ケースの内側から見たところ



パーツの取り付け順は下図の通りです



スピーカーターミナル

リアパネル

L型端子

ナット

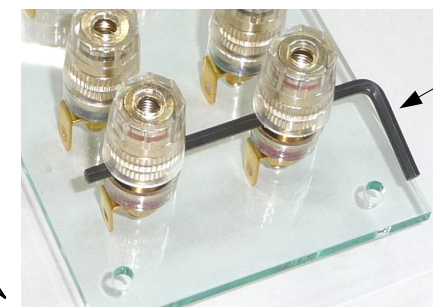
樹脂ワッシャ

ファイバーワッシャ

バネワッシャ

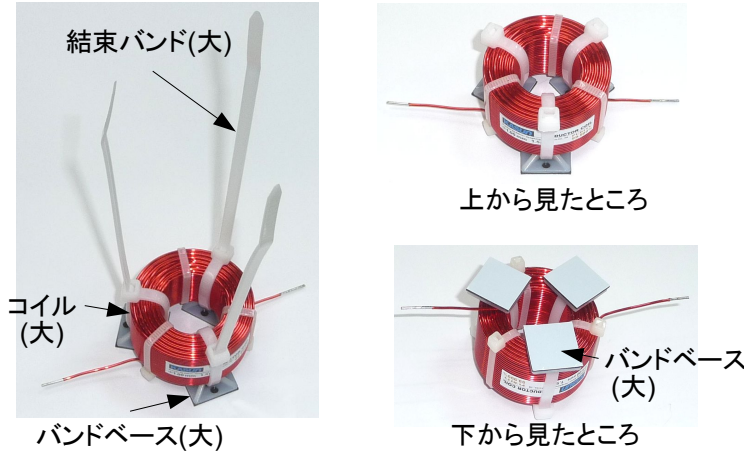
M4の「ナットドライバー」でナットを締め付けて固定します

ナットを締め付ける前に、「スピーカーターミナル」の丸穴に「六角レンチ」などを通して丸穴の位置を合わせることが出来ます



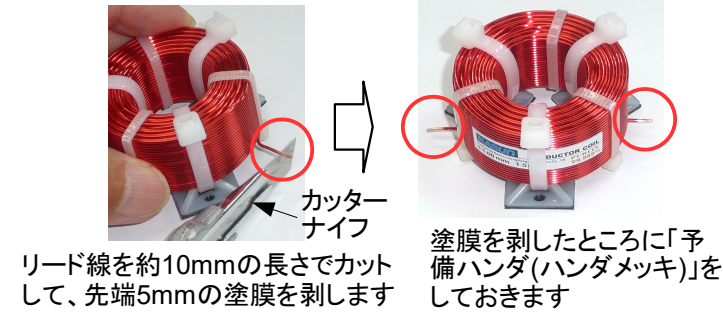
六角レンチ

- ④「コイル」の加工をします 商品に付属の説明書から一部省略しています
- ④-1「コイル(大)」に「結束バンド」をつかって「バンドベース」を取り付けます

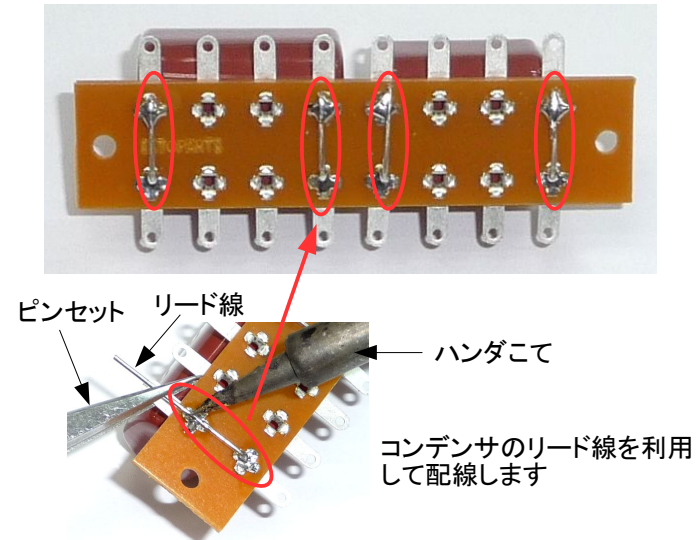


円周を3等分して「バンドベース」を固定します
余った「結束バンド」はニッパーでカットしておきます

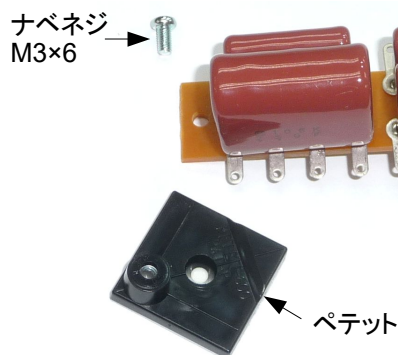
- ④-2「リード線」の処理をします



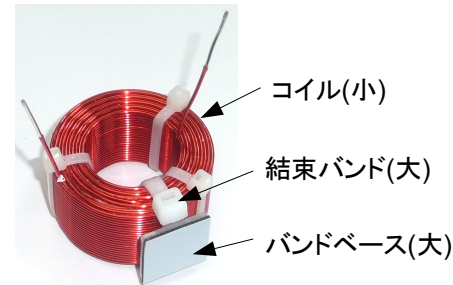
ラグ板の下から見たところ



- ⑥「ラグ板」に「ペット」をネジ止めします(2カ所)



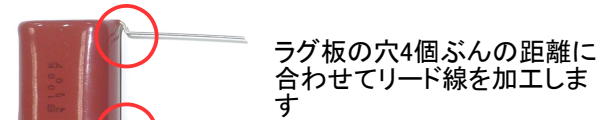
- ④-3「コイル(小)」に「結束バンド」をつかって「バンドベース」を取り付けます



このコイルはリード線の処理を行いません

- ⑤「ラグ板」に「コンデンサ」をハンダ付けします

- ⑤-1 コンデンサのリード線を加工します

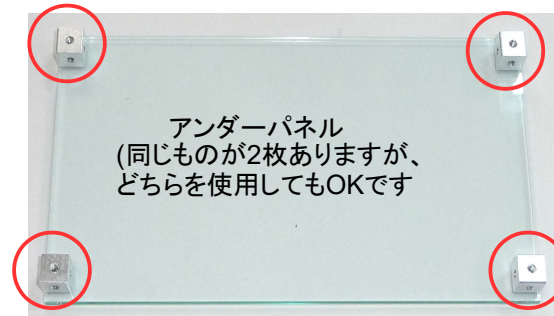


- ⑤-2 コンデンサ4個をハンダ付けします
写真は「上」から見たところ



- ⑦ アクリルケースを組み立てます

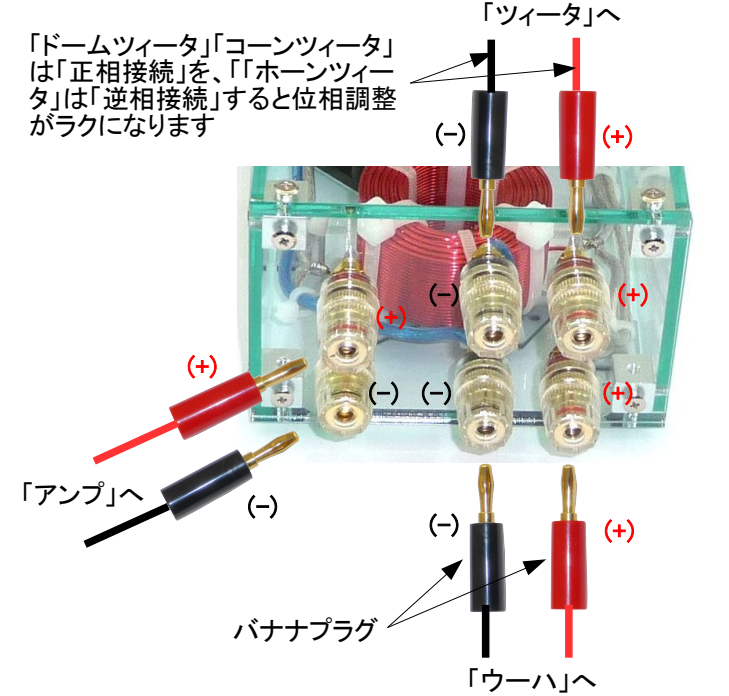
- ⑦-1「アンダーパネル」に「サイコロスペーサ」を取り付けます(4カ所)・・・「超低頭ネジ M3×6」を使用します



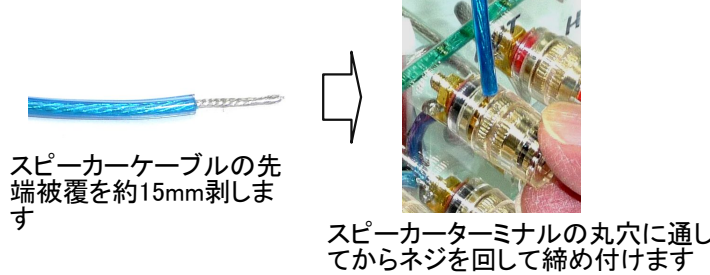
- ⑦-2「アンダーパネル」に「フロントパネル」を取り付けます
ケースの組み立てにはすべて「超低頭ネジM3×6」を使用します

すべての組立工程をカラー
写真で詳しく説明しています
A3×3ページ

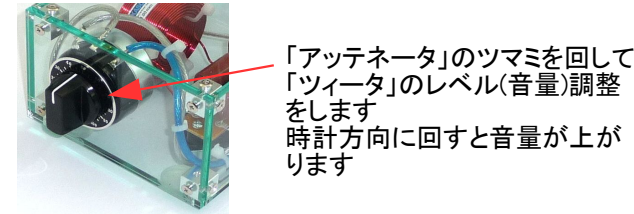
- 「アンプ」や「スピーカー」との
接続のしかた



- *バナナプラグを使用しないとき



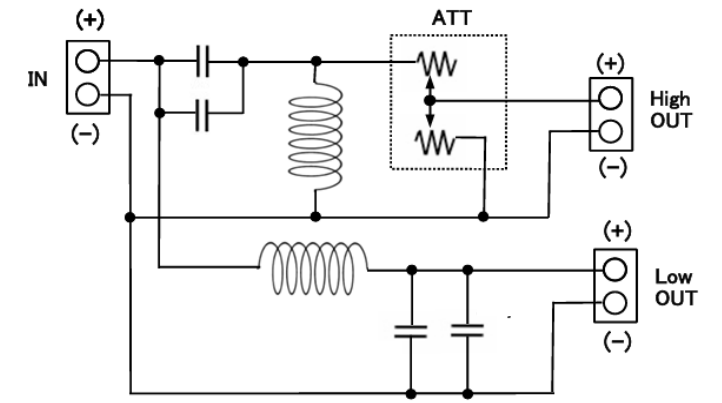
- 「ツイータ」のレベル調整のしかた



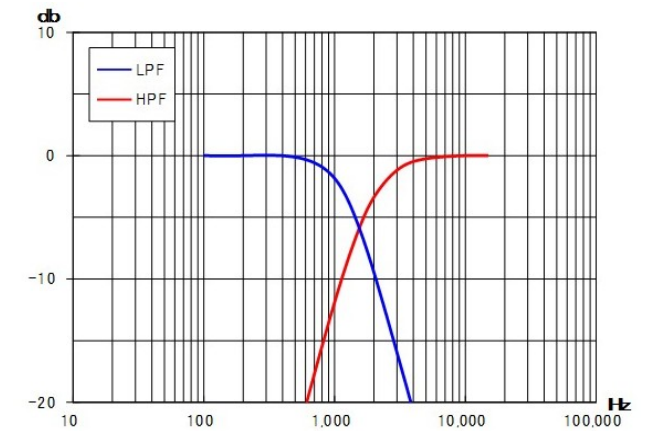
- 「20cmバックロードホーン」に「広帯域ホーンツイータ」を組み
合わせた例



- 回路図 一部非公開です
商品に付属の説明書には記載されています



- 遮断特性実測例



- 本キットを使用して「2WAYシステム」を構築されるときのア
ドバイス

- 低域用スピーカーは10cm～20cmのウーハユニットおよびフルレンジユニットが使用できます
- 高域用スピーカーはドーム型、ホーン型、コーン型の広帯域ツイータが使用できます
・推奨クロスオーバー周波数が1.5kHz以下のものをご使用ください
(超高域専用のスーパーツイータは使用できません)
・出力音圧レベルがウーハよりも高いものを選んでください
- ツイータの音量レベル調整はフルレンジユニットと聴き比べながらウーハとのバランスを調整されることをおすすめします
- 本キットは二次フィルターを採用しています
そのため、ツイータの「位相」が180°進みます
言い替えますと1/2波長(約10cm)だけウーハより先にツイータの音が耳に届きます
対策として、ツイータの振動板の位置をウーハの振動板位置より約10cm後ろに下げてやる必要があります
(クロスオーバー周波数である1.6kHzの1/2波長は約10cm)
・ドームツイータおよびコーンツイータの場合は「逆相接続」すれば解決します
・ホーンツイータの場合は「正相接続」すればウーハ振動板との距離を合わせやすくなります
・いずれの場合も聴きなれた楽曲が自然に聞こえるようツイータを数cm前後に移動して最適なポイントを見つけます